

木に住まう

最優秀賞

2008年度

— 第1回 —

あおもり産 木造住宅 コンテスト 作品集

『大草原の小さな家』

優秀賞

みたいな家に住みたい

菜園を 楽しむ家

優秀賞

あおもり産木造住宅コンテスト
実行委員会

2008年度
第1回
あおもり産
木造住宅
コンテスト
目次

2008年度
第1回
あおもり産
木造住宅
コンテスト
最優秀
作品



4P

「木に住まう」

応募者／(株)大山建工

2008年度
第1回
あおもり産
木造住宅
コンテスト
優秀
作品



6P

「菜園を楽しむ家」

応募者／山本プランニング一級建築士事務所

2008年度
第1回
あおもり産
木造住宅
コンテスト
優秀
作品



7P

「『大草原の小さな家』みたいな家に住みたい」

応募者／中野 由美子



8P

「木の博物館」

応募者／企業組合 県木住



8P

「自然がいちばん」

応募者／企業組合 県木住



9P

「そのままの木」

応募者／企業組合 県木住



9P

「ひとり住まいの小住宅」

応募者／(株)佐藤建設
(青森スギで家を建てる中南地域会)



10P

「老夫婦ふたり住まいの小住宅」

応募者／(株)佐藤建設
(青森スギで家を建てる中南地域会)



10P

「光と風が集う住まい」

応募者／長尾忍建築士事務所



11P

「和でも洋でもない新林家スタイル」

応募者／大工舎



11P

「住まう人の心と地の木を紡いだ和モダンの家」

応募者／有限会社 赤穂工務店



12P

「県産材にこだわった住宅」

応募者／A.O氏



12P

「自然資源と電気で暖める環境に配慮した新しい住まい」

応募者／(有)齊下建業



13P

「おぐらみある和の平屋」

応募者／(有)岩木建設



13P

「子供の声が響く! 家族の和木住宅」

応募者／R.S氏

あおもり産木造住宅コンテスト
実行委員会 会長
青森県木材利用推進協議会 会長
駒井 修一

刊行のことば

じ、青森県の住宅
の本来あるべき姿

というものを思い、緑豊かな郷土青森県
が後世まで豊かな姿であり続けるよう、
木の役割、人間の生活との関係、地産地消
の役割などを今一度見直していただだけ
ばと思います。
今回、応募して下さった工務店、設計
事務所、施主の各位、公開審査に参加して
下さった皆様、青森県住宅リフォーム
推進協議会様を始め、御指導、御協力くだ
さった関係各位に対し深甚なる敬意と
謝意を表す次第であります。

私たち「あおもり産木造住宅コンテ
スト実行委員会」は、県産材の地産地消の推
進を図り、林業・木材産業及び木造住宅産
業を活性化し、青森県の森林を循環的に
利用していくことを目的に、平成20年に
設立しました。

この目的を達成するためには、青森県
産材の良さを県民の皆様を知っていただ
き、より一層の需要拡大を図ることが必
要であると認識し、第1回あおもり産木
造住宅コンテストを開催しました。

本コンテストを機会に、青森県産材の
持つあたたかさ、ぬくもり、やさしさを感

講評

審査委員長
(社)青森県建築士会 会長
川島 芳正

審査全般について

今回の作品では、デザイン性、木を活かしているか、
地域の気候・風土へ配慮しているか、地球環境へ配慮
しているかの4項目を中心に審査いたしました。
そのなかで、木の良さを活かしているかについて
は、全作品に応募者の個性があらわれていました。
特に木の活用の仕方については全応募者が熟知し
ていると感じました。

また、地域の気候・風土への配慮では、津軽と南部
多雪地域と小雪厳寒地域の違いを適確に捉えて設計
されてきました。地球環境への配慮については、全作
品に共通する重要な課題としてCO₂の削減などが考慮
されておりました。高断熱高気密の採用、新ストーブ
の使用、それから控えめな暖房と重ね着という昔に返
ったようなアピールもあり、すべての応募者が相当
研究している印象をうけました。全作品とも甲乙が
つけがたく、優秀な作品が出そろったと感じました。

【最優秀賞】株式会社大山建工

代表取締役 大山重則

この作品は「木に住まう」をテーマとしておりま
して、テーマ通り内部にアカマツ、スギを多用して
います。アカマツは南部地方の特産であり、地産地
消に合ったものです。木材は育ったところで育った
ところの環境で使うのがベターであるといわれて
おります。その点で大変評価できました。また、住宅
の吹き抜け部分の8寸角の大黒柱、そのほか大きな
柱、梁と豪快な木材の骨組みへの使用が木材の魅力
を引き出しています。

総合的に見ても木の良さを引き出したデザイン
とふんだんに木材を使用しながら、木材と壁材が
絶妙なバランスであるなど、都市部での県産材木
造住宅の優良なモデルとなり得る作品であり、公
開審査・審査委員審査共に高得点を獲得して最優
秀賞に選ばれました。

【優秀賞】有限会社山本プランニング 級建築士事務所

代表取締役 山本潤児

この作品は、退職されたご夫妻の第二の人生にふ
さわしいライフサイクルを考えた平面プランであ
り、畑仕事から住宅の一階、一階から二階の流れ、階
段を活用した二階の平面プラン、二階からの津軽平
野の眺望への配慮とライフサイクルに完全にマッチ
した点が評価されました。外観的には都会的な洗練
されたデザインであり、一階部分の木材使用方法に
デザインの魅力があったことが評価できます。住
宅内部では、耐久性の高いヒバ材を土台と風呂の内
装に使用し、肌触りのよいスギを床板に、粘り強いア
カマツを梁に、堅さと耐久性を併せ持つクワを板土
間の床板等、適材適所に県産材を採用しているこ
ろが高く評価されました。郊外型の県産材木造住宅
モデルとなりえる作品であり、地域の気候への配慮
が高く評価され、優秀賞になりました。

【優秀賞】中野由美子

この作品は、外観が周りの自然環境にとけ込むよ
うに、県産材を外壁に張り、山小屋風の雰囲気を出し
ています。構造的にもひさしの取り方で壁材の劣化
を防ぐなど工夫されています。また、内壁にはあえて
ヒバやスギを無塗装で使用しているのが家の中に木
の香りがたぐい、さながら森林浴をしているよう
な癒しの空間を醸し出している点などが高く評価さ
れます。階段を住宅の中心に置き、新ストーブ一台で
全館暖房をおこなうなど省エネ暖房も評価しまし
た。山村部の県産材木造住宅モデルとなりえる作品
であり、また、環境への配慮が高く評価され優秀賞と
なりました。

【特別賞について】

当初に予定していた特別賞ですが、最優秀賞・優秀
賞の三作品が前述のとおりそれぞれ個性的な特徴を
持っており、特別性を兼ねる作品であることから、今
回は該当無しといたしました。

2008年度
第1回
あおもり産
木造住宅
コンテスト
最優秀
作品

木に住まう

株式会社大山建工

「施工者談」

夫婦と子供二人の家である。求められたのは『家族の団欒が生活の芯である』、『伝統的な木の住まい』、『シンプルな外観であること』、『そして』、『ゆったりとした時間が流れる家であること』、『しつらえる家具も事前に示され

ていて、施主のセンスが感じられる。これらをまとめる事が設計として求められた。各室はダイニングテーブルを中心に展開させ、2階の各個室とはこの吹抜けを介して空間を共有する。吹抜けの効果もあるが平面図から伺える狭さは一切感じられない。このダイニングに注ぐ柔

らかな間接光が、上質な空間の一助になっているのは明らかである。その生活を内包する構造体をあえてあらわした。土台は青森ヒバ、通し柱と梁はアカマツ、和室柱と大壁室の柱はスギ、床にはアカマツとケヤキを用いた。建具もスギである。「伝統的な木の住まい」それは構法や仕上げ

材として木を使うだけではなく、地場の材で造ること、何より山と施主との距離はもっと短かったはず、地産地消である事と思う。いつしか生活の中心はテレビになっていないだろうか？この家では無骨ではない美しい構造体に内包された家族の笑顔が見える。



落ち着きある家族団欒の和室。



力強い大黒柱と梁、安心感を与えリビングを癒しの空間に。

施主談

県産材、特に地元の木材で家を建てるという考えは最初からありました。自分の持っているイメージを現実的な価格で可能にしてくれる大工・工務店を探るところから始めて、本当に数々の展示場を巡りました。そんな時、大山建工さんの住宅展示場に訪れた時に、この家を

担当してくれた棟梁さんとお会いしました。家造りに対する思いを語り合い、直ぐにその場で意気投合。家造りに入ると、まず木材選びから立ち会うことが出来ました。その中で一番気に入った曲がりを持つ木を梁に使ってもらいました。製材・加工、図面から立体に組み上がっていくという過程でも細かく打ち合わせ、自分の意見を現場

に反映させて頂けました。そうして出来たこの家は自分の持っていたイメージと全く一緒でありながら、耐震構造等もクリアした理想どおりの家となりました。自分の家を造ったんだと胸を張って言えるこの家には、他所では見れない玄関の框や階段、吹抜から寝室まで通した梁、父親の形見をアクセントとした壁などなど、思い入れがあ

る所を挙げたらキリがありません。造り手と住まい手の思いが一つになったからこそ出来た、自慢の我が家です。



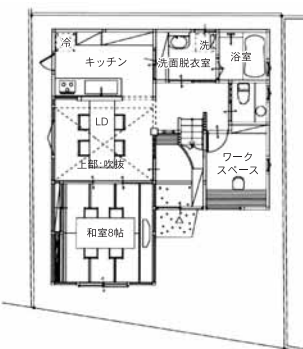
施主が選んだこだわりの梁。吹抜けに面する部屋には窓がつけられ、熱や風が家全体を巡る。



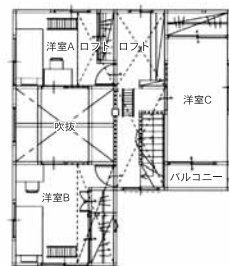
父親の形見をアクセントとした壁。



加工場から施主がピックアップしたこだわりの階段。



1階平面図



2階平面図



町並みに調和するシンプルな外観。

- 所在地：八戸市／K氏邸
- 県産材使用量：28㎡
- 県産材使用率：100%

- 施工者（応募者）：(株)大山建工
住所：〒039-1502三戸郡五戸町大字切谷内字淋代14-1
TEL：0178-21-3055
- 木材調達先：上北森林組合木材加工センター
TEL：0176-69-1200



施主の希望で部屋まで突き抜けた梁。



玄関に入ると外見のイメージが一変。こだわりの框が出迎える。

菜園を楽しむ家



将来の不安が無いよう、昇降機が付けられる幅と、安全に昇り降りできる勾配が配慮された階段。



土間より多目的和室を見る。土間の床には堅さと耐久性に優れる県産クリを、和室の造作材にはヒバを、廊下にはスギを。



キッチンは対面型とし、夫婦で料理から食事までを楽しむ。床には優しく暖かいスギの無垢床板。

「設計者談」

定年を迎え、退職されたご夫婦のための住宅です。「畑で野菜を育て、食し、今日の日を団らんする」記憶の底にある懐かしさ、よき時代の暮らしを、もう一度味わうことのできる家が求められました。

以前よりご夫妻で楽しんでこられた家庭菜園を、長く楽しんでいきたいとの思いから、新居のために用意した196坪の敷地でその1/4を住宅、残り3/4を菜園としました。

平面計画は回遊性を重視し、合理性+楽しさを基本としています。日常生活エリアを2階とすることで畑や岩木山を眺めながら暮らせる様、また、冬期間の雪の重圧感から開放性を提案しています。

1階の土間・軒下・畑Ⅱ「室内・中間地域・外部」を連続させることで農作業の楽しさを演出します。現在の高断熱技術による快適性と青森県の自然の恵みを生かした生活、そして退職を期に訪れたゆったりとした時間を味わうことのできる空間、これらがこの住宅に託した思いです。

「施主談」

住宅見学会等に参加する中で、住む人にやさしい木の家、しかも、食における地産地消と同様に、青森の四季に育まれた県産材で建てるのが自然で当然のことと思えるようになりました。

設計は、男女両方の視点から間取りなど細かな提案をしていただけた山本プランニングさん、施工は丁寧な仕事をする弘前市の桜庭工務店さんをお願いしたところ、要望がほぼ叶えられ、満足できる家が建ちました。

- 所在地: 青森県内/T氏邸
- 県産材使用量: 31.36㎡
- 県産材使用率: 97.01%

- 設計者(応募者):
(有)山本プランニング一級建築士事務所
住所: 〒030-0944 青森市筒井三丁目17-3
TEL: 017-738-8452
- 施工者/(有)桜庭工務店
TEL: 0172-27-4320
- 木材調達先/青森県森林組合連合会
TEL: 017-732-5333



2階リビングに連続したバルコニー、バルコニー下が作業空間になっている。



広いデッキ、ログハウス風の外觀、デッキを活用しやすいよう動線にも配慮されている。

「大草原の小さな家」 みたいな家に住みたい



1台でやわらかく
家全体を暖める薪ストーブ。



無塗装の青森ヒバ内装が森林浴をしているような癒しの空間を作り出している。

応募者談

昔好きだったあの番組。大自然の中にお父さんが木でたてた家。暖炉の火、ろうそくの灯りでの夕食。そうしてできたのがこの家。外壁の板は金づちで釘一本一本手で打つ作業。1階2階もオール木の壁。大工さん泣かせだっただろうが、この木のぬくもりがとても暖かい。玄関を開け、一步はいるとほのかに漂う木の香り。塗装屋さんの「木に手アカが付くから塗った方がいい」との声にも木の香りが出なくなるため内装の壁板には塗料を一切塗らず、ムクのままである。

「天気がよくい時外で食事したい」という希望も叶えてもらった。裏のウッドデッキに夫の手作りのガーデンテーブルでバーベキューをしたり、おやつを食べたりしていると楽しんでる。

玄関前南側、東側の軒が広く、デッキになっている。これもお気に入りだ。雨が降っても、子供が走り回り、ブランコに乗ったり、シャボン玉をしたりと、外で遊べるのだ。もちろん大人の私たちもベンチでのんびりくつろげる。

今年が薪ストーブのおかげで冬が楽しめだ。試運転では家中が暖かだ。ストーブ用の木を夫がトラックで運び、息子と二人でおろし、薪割りを。そして私が積み上

げる。オール電化がもてはやされているが、こうして家族みんな協力し、炎を見てあたたまる。こんな我が家こそ、なんて快適な生活だろうと私は思う。

2歳の息子はお父さんのまねをしてあちこちに金づちで釘を打ち、私に怒られながらも裸足で走り回っている。

ここは子供が元気いっぱい、のびのび育つ、そんなステキな家だ。

- 所在地: 十和田市/N氏邸
- 県産材使用量: 44㎡
- 県産材使用率: 97%

- 施主(応募者): 中野由美子
- 設計者: 中野建築設計事務所
TEL: 0176-62-3390
- 施工者: (株)中吉建材店
TEL: 0176-68-3456
- 木材調達先: (有)中吉製材所
TEL: 0176-56-2025



内装に無垢のヒバを使ったトイレ



造作材にスギを使用したシンプルな和室

木の博物館



床はクリ、セン、ホオなど、腰壁はアカマツ、天井はヒバ、壁は珪藻土。

施工者談

二種類に張り分けたスギがとても印象的なこちらの家は、十三種類の青森県の木を使用しました。土台にヒバ、柱にスギ、梁にアカマツを使っており、防腐処理した木材は使用していません。

リビングからつながるウッドデッキは、敷地いっぱいには広がり、周囲を気にすることなく楽しめる空間となりました。

お洗濯の動線、洗う↓干す↓たたむ↓しまうの一連の作業を二階



各段板に違う木材を配置。(ナラ、ホオ、センなど)

に集約しているのです、忙しい日を送る施主様におすすめです。一室に、マカバというピンク色でとても上品な風合いの床板を採用。ほかの部屋にはない安らぎ感が出ています。

■所在地・所有: 青森市/M氏邸 ■県産材使用量: 46.1㎡ ■県産材使用率: 100%

■設計・施工者名(応募者): 企業組合 県木住

住所: 〒030-0813 青森市松原1丁目16-25 青森県森林組合会館2階 TEL: 017-732-5333

■木材調達先/青森県森林組合連合会 TEL: 017-723-2657

外壁はスギ(天然塗料着色仕上げ)



自然がいちばん



床はスギ、壁は珪藻土、囲炉裏横の柱はイチイ、柱はイタヤカエデ。

施工者談

外壁には、化学物質を使わない火山灰シラスを利用した土壁とスギの羽目板を使い、自然に還る材料でつくりあげました。

内壁には珪藻土に豆腐作りに使われる【にがり】を混ぜ込んでいます。土台にヒバ、柱にスギ、梁にアカマツを使っており、防腐処理した木材は使用していません。

床は全てスギ。やわらかくて暖かな感触がとても気持ちいいです。そんな地に優しい材料に囲まれて、家族や友人との語らいの



食器棚はスギ。

場として小さな囲炉裏を2階のリビングに設けました。すぐ横を走るJR東北本線を眺めながら、会話も弾みそうです。リビングの天井は、2階の床材の裏側になっており、2階の天井はすべて小屋組をあらわしているため開放感がありながら、天井材分のコストを削減しています。

■建築場所: 青森市内/H氏邸
■県産材使用量: 26.8㎡ ■県産材使用率: 100%

■設計・施工者名(応募者): 企業組合 県木住

住所: 〒030-0813 青森市松原1丁目16-25 青森県森林組合会館2階 TEL: 017-732-5333

■木材調達先/青森県森林組合連合会 TEL: 017-723-2657



そのままの木



床と腰壁はスギ、壁は珪藻土

「施工者談」

外壁すべてをスギ板の下見貼り
にしているのがとても印象的です。
コーナー部分と単独柱、デッキ
部分以外は塗装をせず、自然に色
がついていくのを楽しめます。
だから手をかけずにイイ味が
出てきます。
土台にはヒバ、柱と梁にスギを
使っているの、防虫処理はして
いません。
床はすべてスギ。柔らかくて暖



和室天井と広縁の床は、ヒバ

減しています。
軒を深くすることにより、強い
日差しをさえぎり、雨や雪からも
外壁を守ります。

かな感触がとても気
持ちいいです。
立ち仕事の多いキッ
チンにも敷きました。
足にかかる負担を和
らげてくれます。
大きなサツシの上
にある小さな窓は、
換気窓。
梅雨のじめじめし
たときにも、外出時
にもあけていられる
優れものです。
1階の天井は、2階
の床材の裏側になっ
ています。
天井が高くなり、
天井分のコストを削
いでいます。



- 所在地:青森市/I氏邸
- 県産材使用量:45.9㎡ ■県産材使用率:100%
- 設計・施工(応募者):企業組合 県木住
- 住所:〒030-0813 青森市松原1丁目16-25 青森県森林組合会館2階 TEL/017-732-5333
- 木材調達先/青森県森林組合連合会 TEL:017-723-2657

ひとり住まいの小住宅



「応募者談」

22坪の「ひとり住まい」可愛ら
しい住宅です。
間取りは、明るさを採り入れや
すく開放感が得ら
れる2階にLDK、
その南側には2坪
のデッキがあり、そ
の一体感のある豊
かな空間は何か心
が満たされるもの
を感じます。
1階には寝室と



水回りを配置し、さながらホテル
の一室を思わせるちょっと贅沢
な気分を味わえます。
構造材は、土台に県木のヒバ、
柱は青森スギ、梁はア
カマツを使い、内装は
シンプルに、床は青森
スギの無垢板にし、壁
は一部に天然スギの
無垢板をアクセント
として使用しました。



- 所在地:弘前市/T氏邸
- 県産材使用量:9.1㎡ ■県産材使用率:75%
- 応募者:青森スギで家を作る中地域会 住所:〒036-8002 弘前市大字駅前2丁目20-17 TEL:0172-33-2995
- 設計者:(有)木戸建築設計事務所 TEL:0172-33-2995
- 施工者:(株)佐藤建設 TEL:0172-97-2456
- 木材調達先:青森県森林組合連合会津軽木材流通センター TEL:0172-52-5011

老夫婦 ふたり住まいの小住宅



応募者談
定年退職を機に夢にまで見ていたという「ふたり住まい」の和風住宅です。

平屋で30坪の小住宅ですが、LDKと床の間つきの和室、寝室の3部屋とその他水回りからなっていて、全体はゆったり目の広さで車イスでの生活も考慮されています。

構造材は土台に県木のヒバ、柱は青森ヒバ、梁はアカマツを使い、内装は床を青森スギとヒバの無垢板張、壁は天然スギ、ホオ、セン、ヒバの板をバランスよく配置し、

天井の一部にクルミ、台所カウンタ―にはキハダを使用してみました。



■所在地:大鰐町/Y氏邸 ■県産材使用量:15.9㎡ ■県産材使用率:71%

■応募者:青森スギで家建てる中地域会 住所:〒036-8002 弘前市大字駅前2丁目20-17 TEL:0172-33-2995
■設計者:(有)木戸建築設計事務所 TEL:0172-33-2995
■施工者:(株)佐藤建設 TEL:0172-97-2456
■木材調達先:青森県森林組合連合会津軽木材流通センター TEL:0172-52-5011



光と風が集う住まい



柱、梁、大垂木、床板、天井にスギを使用。

設計者談

光と風…自然の力を必要とするこの意味。青森ヒバ、青森スギ、珪藻土、火山灰シラス…素材が木や土であることの意味。それは日々の生活の中で、ここに住まう家族のみんなが五感で感じわかること…。

K氏邸の住環境に無機質なもののなど一切ありません。

季節により高度が変わる太陽光。夏期にはそれを軒先で遮断し、冬期には掃出し窓と高窓により積極的に室内へ導く。

最大の武器ともなる。素材の特性、機能をうまく利用

した先人たちの知恵…。

気候風土にあった建築を可能とする資源の地産地消…。全てはあたりまえのこと…。忘れてはいけません。



水回りや浴室には耐久性の高いヒバを使用。

■所在地:平川市/K氏邸 ■県産材使用量:31.04㎡ ■県産材使用率:80%

■設計者(応募者):長尾忍建築士事務所 住所:〒036-0343 黒石市大字浅瀬石字村元114-20 TEL:0172-53-0735
■施工者:長尾建設 TEL:0172-53-0525
■木材調達先:青森県森林組合連合会津軽木材流通センター TEL:0172-52-5011



土台は耐久性のあるヒバ、外壁はスギと火山灰シラスの左官仕上げ。

和でも洋でもない 新民家スタイル



「施工者談」

無垢の木材を家の構造材として使う場合、これから年月を経る過程で、木材がどういふ動きをするか、あらかじめ予想して加工しなければならぬ。
それが、生きているものとして木材を扱うときの注意する点である。

また、弱点のある材でも適材適所で使うことにより、はじくことなく全部使っていくことができる。
そんな昔ながらの工法で組み上げた建物がこの家である。



民家スタイルであるから素材も当然、天然素材で。
仕上げはもちろん下地材に至るまで極力、新建材は避けました。

家の中の環境を大切にしている建物は、きつと外の環境に対してはやさしいものになりうるのではないだろうか…



■所在地: 階上町/Y氏邸
■県産材使用量: 23.3㎡ ■県産材使用率: 100%

■設計・施工(応募者): 大工舎
住所: 〒039-1201 三戸郡階上町大字道仏字泉田窪21-2 TEL: 0178-87-3547
■木材調達先: 三八地方森林組合 TEL: 0179-22-2615

住まう人の心と地の 木を紡いだ和モダンの家



「施工者談」

新しいのに懐かしさの漂う空間をコンセプトとした「和モダン」住宅です。外観は切妻の大屋根に、デッキに巡らせたスギ板のルーバーでアクセントをつけた日本家屋風のたたずまい。トータルコーディネートは、

施主様の感性に合わせた繊細で落ち着いた感じのあるものを目指しました。吹き抜けのある玄関ホールから格子戸を開けると23畳



の大広間が広がります。ケヤキ8寸角の大黒柱を境に、手前の吹き抜け空間はアカマツの梁をあらわして用い、空間を引き締めています。壁は珪藻土の左官仕上げ、床は幅広のアカマツ無垢材、建具は格子戸と障子を用いて光をやわらげています。

また、室内全体に和のエッセンスを適度に配置し、樹種ごとの木肌をコーディネートした落ち着いた懐かしさを醸し出しています。



■所在地: 八戸市/U氏邸
■県産材使用量: 33.5㎡ ■県産材使用率: 100%

■施工者(応募者): 有限会社 赤穂工務店 住所: 〒031-0013 八戸市大字石手洗字油久保6-10 TEL: 0178-96-5510
■設計者: 大屋一級建築設計事務所 TEL: 0178-25-0638
■木材調達先: 八戸チップ工業(株) TEL: 0178-27-3074

県産材にこだわった住宅



「施主談」

材料は全部県産材のスギ・ケヤキ・クリ・ヒバを4〜5年前から準備、製材し自然乾燥させたものを使用。

主要構造材は外回りの柱にはク

リ、中の柱にはケヤキ・スギ・ヒバを使い、外壁はサイディングではなくクリの板張りとし、上部には白壁を塗り、入母屋造りにマッチするようにした。

内装にもこだわり、腰板にケヤキ・サワラ・



スギを、床板はケヤキ・ナラ・ヤマザクラの無垢材を、天井にも杉の無垢材を使用し建具も既製品でなく県産スギ・ヒバで作りにした。台所兼居間に鋳物製の薪ストーブを設置し暖房につかい、極力灯油の消費量を少なくしようとし心掛け、地球温暖化防止に多少なり協力していると思っ

■所在地: 田子町/〇氏邸 ■県産材使用量: 115.8㎡ ■県産材使用率: 100%

■施主(応募者): A・O氏

■設計・施工者名: 志村建築 TEL: 0179-23-4226

■木材調達先: 三八地方森林組合/青森県森林組合連合会津軽木材流通センター
TEL: 0179-22-2615/0172-52-5011



自然資源と電気暖め環境に配慮した新しい住まい



「施工者談」

太陽光発電、雨水利用、コンポスト、バイオマス燃料ペレットストーブと深夜電力の蓄熱ストーブの組み合わせ、空気熱利用のヒートポンプでの給湯、サンルームからの熱の取得、24時間換気の排気熱利用などのパッシブ利用。

2階はスギのフローリングのぬくもり空間に、斜め天井全面に青森ヒバを使用し、10cm角の垂木でさえ、骨太の空間を表現しています。また湿気に強いヒバを浴室の壁、天井に使い安らげるスペースとしています。

内部は木と珪藻土、和紙、エコクロス等、天然の材料。基本的に構造はあらわしにし軸組空間の美しさを強調した造りが特徴です。1階は傷に強い樺のフローリングにスギの天井板。



青森ヒバの天井、スギのフローリング。

■所在地: 八戸市/A氏邸 ■県産材使用量: 34.2㎡ ■県産材使用率: 67%

■施工者(応募者): (有)齊下建業 住所: 〒034-0011 十和田市稲生町14-48 TEL: 0176-22-7845

■設計者: 甲田設計 TEL: 0176-23-4203

■木材調達先: 上北森林組合 TEL: 0176-69-1200



おぐらみある和の平屋



7寸角の大黒柱2本。床はカラマツ。

「施工者談」

外観は黒石のこみせ通り風にアレンジしました。

内観は7寸角の大黒柱。梁を見せるため昔風6寸角をあらわし、部屋の重量感が感じられます。

台所に立って南面を見たとき、高い窓から日光が流しまで入ることで、圧迫感がなくなるため、ダイニング、リビングの天井を吹き上げにしています。廊下の腰壁はスギ



玄関の壁にスギ板を使用。

板、巾口不揃いの変化もあっておもしろくしています。

断熱は外断熱+内断熱+附加断熱に。サッシはすべて樹脂です。トイレの壁は青森ヒバ材です。ヒバの香りがよくとても居心地がよいです。

洗面脱衣の壁はスギ板です。湿気がこもる場所なのでやわらかいスギ板で湿気を吸収してくれます。

■所在地:十和田市/〇氏邸 ■県産材使用量:32.9㎡ ■県産材使用率:95%



■設計・施工(応募者):(有)岩木建設 住所:〒034-0107 十和田市大字洞内字井戸頭175-1 TEL:0176-27-2906
■施工者:設計工房 プランズ TEL:0176-62-4013
■木材調達先:(株)わかもと TEL:0176-28-2244
黒石のこみせ通り風の外観、下部分にスギ下見板。

子供の声が響く！ 家族の和木住宅



「施主談」

木造2階建てで、土台はヒバ・梁はアカマツ・それ以外はスギで建築し、外壁も全てスギ材で周辺の環境と調和をとるために塗料の材質や色にも配慮しました。

スギ材は構造・屋根・フローリング・外壁と、同じ木材でも全く異なる印象を与えています。暖房はもちろん薪ストーブをリビングダイニングの中心に配置している。また、フローリングはスギ無垢材とナ



ラ無垢材を使用した。間取りは1階に居間・台所・バス

イレ、中2階にもスペースや収納があり、2階は子供部屋と寝室・ブレイクム、ロフトもあり、限られたスペースを有効に使った設計となっています。子供たちは、冬でも裸足で走り回っており、木のぬくもりを体感している。また、部屋間の仕切りをなくして連続したひとつの空間とし、親子の会話が室内に心地よい響きを醸し出している。

■所在地:風間浦村/S氏邸 ■県産材使用量:26㎡ ■県産材使用率:96%



■施主(応募者):R・S氏
■設計者:(有)景建築工房 TEL:03-5207-6252
■施工者:(有)中道建設工業 TEL:0175-23-4162
■木材調達先:(有)奥入瀬木材 TEL:0178-56-4500

住宅にもっと県産材を使っていくためにはどうしたらよいか？ 第1回コンテスト受賞関係者と主催者が座談会形式で検討しました。

鎌田：青森県には県産材が豊富にあります。しかし、県内の住宅をみると、県産材の使用割合は2割〜3割です。地域の木を地域で使うことで、外国から木材を運ぶ際に発生するCO₂を削減できるほか、青森県の森林整備も経済も活性化します。そこで、実際に県産材を使って住宅を建てた体験を、それぞれの立場から生の声をいただき、県産材住宅普及のヒントを探って行きたいと思います。

【県産材を使いこなせる職人との出会いが重要！】
K氏(施主の立場から)

私の場合は、家を建てるなら県産材で建てようと思ったので、自分の持つイメージを実現してくれる大工・工務店と出会うまで、多くの展示場を巡りました。家づくりに対する思いを共感できる大工・工務店と出会えたことが満足のいく結果に結びついたと思います。

1年間住んでみた感想は、木の柔らかさに包まれていて、木とともに生活しているという実感がすごくあること。昔、コンクリートのマンションに住んでいた時とは全く違い、生き生きと生活している気がします。

【実は安い県産材、木材の特性を知り、活かす】
中野氏(大工(施主・製材所)の立場から)

私は製材所をやっていますので、商売柄身近にある県産材をたくさん使いまし

た。国産材を使えば高くなるというイメージがあるみたいですが、実際は全部県産材で建てると、木材の費用は外材よりも2割ほど安くなります。

この家はカラマツも多く使ってみましたが、カラマツと言えば低級な建物用なのが一般的ですが、特性を理解して使えば使えるんだ、と伝えたかったということもありました。

中野氏(妻)

外見もいいなあと思うし、早く帰りたいなあと思う家です。デッキを作り、ひさしを長くとったので、雨が降っても外で遊べます。夫がつけてくれたブランコで子供と遊んだり、とても気に入っています。あと、薪ストーブは石油ストーブと違って断然暖かいです。長持ちする暖かさのようなものがあり、夜26度位で寝ると、朝になってもまだ20度くらいまでしか下がりません。

【地場の工務店ならではの仕事。そのための向上心、県産材住宅で活路を拓く】
大山氏(大工・工務店の立場から)

古い家を見るのが好きなので、県内の古い家をよく見てきました。南部の家をみると、アカマツが使われているし、津軽に来るとヒバが使われている。年を経てすくすくいい味が出ています。そういうのがやっぱり地元には一番いいと考えるようになり、長い時間を経てからのことを

考えて建てています。県産材は年を経るごとに魅力が増していきます。だから県産材を使っているんです。

中野さん宅はカラマツを使ったといっていました。カラマツは若齢では癖が強くて低級な木材ですが、高齢級になると癖が抜けて良い特性が伸びてきます。木の特性がわかっているからこそすばらしい住宅になったんだと思います。私たちが今回アカマツを使いましたが、アカマツにはアカマツの良い特性があります。木にはそれぞれ良さがあり、そこを理解して使っていく必要があります。

そのためには、木を知る腕のいい職人を育てていくことが重要です。我々地場の工務店は、地場の工務店しかできないことをやって盛り上げていきたい。今回のコンテストが、地場の大工・工務店が県産材住宅で発起する起爆剤になればいいなと考えています。

【徐々に広まる県産材への期待、それに応える体制作りを】
山本氏(設計士の立場から)

徐々に住宅への県産材利用の良さが広がっているように感じます。お客様と話をしていると、県産材って使えますか？という話題は必ずといっていいほど出てくるようになりましたし、「北欧からわざわざ外材を持ってきて、集材材にして使うのはおかしいんじゃないかな？」とい

うようなことを考えるお客様も増えていきます。そこで重要なのが、コスト、流通、環境負荷について、情報をわかりやすく提供していくことです。県産材を使うことでどのくらいCO₂が削減され、どのくらい地元の森林に反映されるかなど。その辺を理解して県産材を使っていくことで、お客様の満足度も違うし、使いたいという意欲も深まります。

もう一つ、スギもなかなかいいものだということが浸透し始めています。だからこそ使い方を工夫して良さをもっと引き出す必要があります。縦使いで圧縮力がかかるところ、柱なんかはスギが使えます。スギの床板については、傷つきやすいから厳しいという意見もありますが、私はフローリングではなく畳だという感覚でお勧めしています。フローリングと違うから傷つくとおかしいシタメだと思っけど、畳なら傷んで当然なことです。傷はつくけど、年数を経ればいい味がでてきますし、手触りがよいか暖かみがあるからということ使いたいという人も増えてきました。壁については、私はスギは赤白あるのであまりきれいだと思わないので、外壁等に使用するときは塗装を施し耐久性向上も兼ねて濃い色をつけてしまします。



出席者

- 最優秀賞：(株)大山建工 代表取締役 大山重則
- 施主：K氏
- 棟梁：中里政義
- 優秀賞：(有)山本プランニング一級建築士事務所 代表取締役 山本潤児
- 優秀賞：中野夫妻
- 主催側：実行委員会会長、青森県木材利用推進協議会 会長 駒井修一
- 審査委員長：(社)青森県建築士会 会長 川島芳正
- 県林政課：鎌田哲司(実行委員会事務局)

【特性を知り県産材を使いこなす。腕の見せ所。知ってもらいたい県産材の良さ】
中里氏(大工・棟梁の立場から)

木というのは割れる。よれる。お客さんが如何に木のことを知っているか、許容してくれるか。それが一番重要ですが、木材供給者側も乾燥技術向上の努力をし続ける必要があります。

外材に比べると、県産材は安いし、刃物も痛みにくく、すごく使いやすいと思います。先ほど山本さんはスギは赤白がはっきりしていてあまり好みじゃないといいましたが、私は全く逆です。外材のスプルーなどは目がでなくてつまらない。スギの赤白を使いこなし、うまく配置し、和室の造作などを作ればすごくきれいにできます。ずっと使ってきましたが、すごく使いやすいし、加工性がとてもいい。割れる、よれる、ねじれる、これらの特性をとらえてうまく使う、またお客さんにその辺をわかっただけで県産材を使いたいと思うようになる。そういう風になればそれが一番いいと思います。

【県産材住宅をサポートするため供給側も切磋琢磨していきます】
駒井氏(木材供給者側の立場から)

木材は植物。自然の恩恵を一身に受けて育っています。さっきの話の曲がるよじれるといったものも自然の理。一本一本癖があり違いがある。これまでは棟梁

さんの持つ伝統的な技術で使ってきました。今は施工期間の短縮などから木材に工業製品の要素を求められています。木材供給者側は乾燥技術・寸法精度を追求していかなければいけません。

最近では外材が入りづらくなってきていますが、外材が減ったから県産材を使っただけというのではなく、きちんと外材に比べて遜色のない品質のものを提供していけるようになっていかなければなりません。後5年から10年たてば原木は今よりもっと品質のよいものが出せるような環境になります。その時、原木は出せるが、製材技術はどうなのか、県民の皆さんは県産材を使いたいと思っているのか、ということが問題です。そういう環境をきちんと整えられているように県も業界も取り組んでいきます。

【木の持つ癒し効果を知ってほしい。】
川島氏(審査委員長の立場から)

15作品すべてうまく県産材を使っていました。やはり県産材＝真壁、柱を見せて行くのがデザイン的にも一番いいのかなと思えました。真壁で柱・梁・押のほうは、木を見て癒されます。そういった木の癒し効果を実感してもらい、県産材住宅がどんどん増えればいいなとおもいます。

大山氏：我々建設業者、林業関係業者ももっと県産材を知っていかねばならない。

県産材の木の強さ・特性とかを強調するための活動を積極的に行っていただきたいと考えています。県にはそういう場を提供してほしいと思います。

駒井氏：試験場でいろいろなデータをとっています。そういったデータをもっとオープンにして、活かしているという情報発信してほしいと思う。

中野氏(夫)：今回のコンテストの動きはどちらかというと大工・工務店・製材所が主導だったかなと思う。今、青森県が提供している情報では、施主の方が具体的にどの程度県産材をつかえば、環境にどの程度影響がでるのか、地元の山がどのくらい整備されるのかという情報が手に入らない。どのくらい県産材を使えばどのくらいCO2が削減されるといったような取り組みを行っている県もあります。そういったものを取り入れてほしい。そうすればもっともっと消費者の方からこういったコンテストに参加してきて盛り上がると思います。

山本氏：最近の消費者はとても細かく考えています。供給者側がほしい情報をきちんと提供していく必要があると思います。今の消費者はそこまで考えているし、そういった情報を欲しています。しっかりとした情報を提供していくことが県産材普及の効果を引き出すと思いますので、県のホームページなどでどんどん情報を発信してください。

鎌田：貴重な御意見ありがとうございました。今日の意見を総合すると、一つは情報提供がもっと必要だということですね。それも、ただデータを公開すればよいというわけではなく、住宅を建てる人が何を求めているのかという情報に的確にわかりやすく対応した情報提供が必要という事です。

県産材を扱う大工・工務店情報、職人情報、県産材のコスト、流通、森林整備への波及効果、経済への波及効果、環境への波及効果、木の持つ効用、こういった幅広い情報をわかりやすく提供していく事が県産材普及のカギになるということです。

また、住宅供給者側には県産材を勉強し、特性を把握していくための場を提供していくことが必要という話もできました。地元の工務店だからこそできる仕事で差別化を図るためにも、住宅供給者側も県産材のプロフェッショナルになることが必要です。そしてそれを支える木材供給者側も、技術向上のために切磋琢磨していかなければいけないという話もできました。

このような点をふまえて、今後、林業・木材産業・住宅関連産業そして行政が協力して対応していきたいと思っています。

県の情報については、県林政課のHPで随時発信していきます。
URL <http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/omoriisiningyo.html>

あomor産 木造住宅 コンテスト

概要

青森県は多様な樹種が分布する森林県であり、特にスギの人工林面積は全国4位と豊富な資源量を誇っており、この恵まれた森林資源を有効に活用し、循環していくために県産材を住宅へ利用する取組を推進しています。また、平成19年3月に策定された「青森県住生活基本計画」では、基本目標の一つに青森の風土に根ざした良質な住宅ストックの形成が掲げられており、この中で積雪寒冷地への対応や、地球環境への配慮などが掲げられています。本コンテストはこれらの背景をふまえ、安全・安心で良質な県産材の木造住宅を広く県民の皆様にご存知いただくことにより、県産材の地産地消の推進と林業・木材産業及び木造住宅産業の活性化を目的に開催するものです。

募集対象

■対象住宅

募集対象となる住宅は、次の全てを満たすものとします。

- 1.青森県内において建築された新築の一戸建て木造住宅であること。
- 2.平成19年4月1日から平成20年10月17日までに完成したもの、若しくは完成する予定のもの。
- 3.青森県産材認証推進協議会が認証する認証県産材を概ね10㎡以上使用しているもの。
- 4.過去に類似の賞に入選したことのないもの。

■応募資格

応募物件の建築主、設計者、施工者、またそれらの連名。但し、相互に了解を得ていることとします。

応募方法

■提出書類

- 1.応募用紙(様式1) 2.平面図・立面図等(建築確認通知書等の図面のコピー)
- 3.県産材証明書(青森県産材認証推進協議会によって証明済みの県産材証明願)の写し
- 4.公開審査用の資料
(ア)記載内容:建築年月日、施工者名、設計者名、木材の調達先の業者名、県産材使用量、作品内容のわかる図面、写真(躯体工事完了時の写真2カット。完成時の外観2カット、内部4カット。)、主旨説明文(600字以内)

■応募用紙取得方法

青森県林政課のHPから募集要領、様式等を取得してください。

URL <http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/aomorisinringyo.html>

■募集期間 平成20年7月1日(火)～10月17日(金)

審査基準

■審査基準

提出された資料を対象に、下記の項目を考慮して判定します。

- 1.デザイン性・印象。(すまいアップフェアにてアンケート形式の公開審査を行います。)
- 2.木の良さが活かされているもの。 3.地域の気候、風土への配慮がされているもの。
- 4.地球環境への配慮がされているもの。

■表彰

【最優秀賞】1作品 【優秀賞】2作品 【特別賞】2作品程度
受賞者には各賞とも賞状と記念品を授与します。

公開 審査会場

すまいアップフェア

主催:青森県住宅リフォーム推進協議会

[開催日]平成20年11月8日(土)～9日(日)

[開催地]青森産業会館 青森市第二問屋町四丁目4-1

URL <http://www.aomori-aba.or.jp/reform/index.html>



主催:あomor産木造住宅コンテスト実行委員会

青森県木材利用推進協議会、(社)青森県建築士会、青森県森林組合連合会、(社)青森県建築士事務所協会
青森県木材協同組合、青森県森林整備事業協同組合、青森県木造住宅普及推進協同組合、青森県建築住宅課、青森県林政課(順不同)